

## 1 これまで（2018～2021年度）の主な取組

### （1）駅を中心としたまちづくりやアクセス向上に関する取組

#### 鷺沼駅前再編整備に関わる取組

- ・環境アセスメント手続き着手【2019年度～】
  - ・都市計画手続き着手【2020年度～】
  - ・新型コロナ危機を契機とした再開発計画の検証を実施【2021年度より継続検討】
- ※鷺沼駅前地区再開発準備組合が主体となり事業推進  
東急（株）は事業協力者として当準備組合を支援



### （2）沿線の暮らしやコミュニティの発展に関する取組

#### 東急ストアの協力による市営高山団地集会所での住民主体の出張販売会

2018年度



#### 宮前平駅改札前（鉄道敷地内）に、図書返却ポスト設置

2020年度



#### 多摩田園都市エリアにおける「nexus 構想」始動

2021年度～

- ・郊外における生活者起点での自由で豊かな暮らしを実現するため、住む・学ぶ・働く・遊ぶといった生活が自然や農と融合した「歩きたくなるまち（Walkable Neighborhood）」を目指す構想。



#### 麻生区において「nexus チャレンジパーク早野」の工事着手

2022年3月

#### 虹ヶ丘団地敷地内における新しい移動サービスの体験会実施

2022年3月



### （3）沿線の魅力向上に関する取組

#### CAMPING OFFICE TAMAGAWA 社会実験

2018年度



- ・「自然の中で働く」新しい働き方の提案

#### 「こすぎコアパーク」

リニューアルオープン

2021年度



- ・歩行空間及び広場整備や飲食・食物販施設の設置

#### SDGs トレイン（脱炭素・SDGs）

2020年9月～



※2022年4月からは鉄軌道全路線を再生可能エネルギー由来の電力100%にて運行

## 2 今後の沿線まちづくりに関する課題等

- 鷺沼駅前地区における再開発（「鷺沼駅前再編整備に伴う公共機能に関する基本方針」（2018年度：川崎市策定）における公共機能の円滑な移転を含む）や交通広場等の基盤整備、駅周辺の活性化、宮前区全体の活性化に資する取組や駅アクセス向上などについて、引き続き、密に連携して効果的なまちづくりを推進する必要がある。
- 少子高齢社会の進展や働き方・ライフスタイルの多様化など社会環境の変化等を見据え、高経年化・高齢化する住宅地の地域課題の解決や沿線の価値向上、生活者起点での魅力的なまちの仕掛けづくりに向け、新たな移動サービスの活用を含め、地域の特徴を活かし、総合的な取組を推進していく必要がある。
- 持続可能なまちづくりの実現に向けて、脱炭素化の実現やSDGsの推進が求められている。

## 3 今後の取組方向

- これまでの取組を継承しながら、次の5つの取組を今後のリーディングプロジェクトとし、地域課題の解決や地域価値の向上につながる沿線まちづくりを効果的に推進するため、川崎市と東急（株）との包括連携協定を更新する。
- （1）鷺沼駅前再開発及び宮前区のミライづくりプロジェクトの円滑かつ効果的な事業推進、再開発の機運を捉えた周辺市街地の活性化及び沿線のまちづくり等の波及展開
- （2）対象地域の特徴を活かし、「農と食」、「資源循環」、「エネルギー」、「駅遠エリアのMaaS」といったサステナブルテーマに基づく実証実験や事業化の取組の推進（nexus 構想の推進）
- （3）コンパクトプラスネットワークの考え方を踏まえた、防災やまちの高経年化等に対応する効果的なまちづくりの検討
- （4）脱炭素化の実現やSDGsの達成に向けた取組の推進（「脱炭素アクションみぞのくち」や緑化フェアにおける取組推進など）
- （5）沿線の魅力向上・社会価値創出に向け、地域資源を活かした個別プロジェクトの醸成